

令和5年度第1回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和5年7月27日（木） 午後1時30分から午後2時35分まで
- 3 開催場所 一関市役所 3階 特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 岩本幸一委員、大崎望美委員、永井春樹委員、熊谷志江委員、鈴木美樹子委員、中芝浩美委員、岡田英利委員、堀籠義裕委員
 - ※ オンライン参加 中机純子委員、船山賢治委員
 - ※ 欠席委員 佐々木雅則委員、鈴木明宏委員、滝上亜寿香委員、野村勉委員、橋本華恵委員、三浦孝浩委員
 - (2) 事務局 菅原稔市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
- 5 議題
 - (1) デジタル田園都市国家構想総合戦略について
 - (2) 人口動態について
 - (3) 企業版ふるさと納税について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 2人
- 8 議事内容
 - (1) デジタル田園都市国家構想総合戦略について
資料No.1 及び資料No.1－1、資料No.1－2により事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。
委員 スケジュールについて、国の動きに合わせて市の総合戦略も改訂する必要があるが、県の改訂作業が完了してからで間違いはないか。また時期は年度末あたりとなるか。
事務局 県の改訂時期は年度末となる見込みであるが、市では来年度以降、総合計画の策定とも合わせながら改訂作業を進めていく。
委員 市の総合戦略の体系を確認したところ、すでにSociety5.0の推進が記載されており、すでにデジタルの視点が含まれているように感じた。抜本的な改訂ではなく、文言の修正や新たな要素を取り入れるだけでよいのではないかと思う。
 - (2) 人口動態について

資料No.2により事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 市の長期的な人口推移をみると社会動態によるものが大きいと思われる。昭和30年頃がピークでそこから減り始めているのは、ベビーブームの世代が市外へ出始めた頃かと思う。出生数の減についても、若い人の減少から始まっている。一人あたりの出生率を上げるというよりも、若い人たちの絶対数を上げることが必要ではないか。若者の社会動態を考えると、今は高校を出てから進学の場合が多いが、進学先の受け皿が少ないので、大学に進学するとなると市外に出ていかざるを得ない。そのような人たちに、どのようにして戻ってきてもらうかというところを総合戦略でも考えていかなければならない。

委員 昭和45年から平成12年頃までは減少が緩やかで、それ以降急激に減っているが理由は何か。

事務局 はっきりとした要因は難しいが、資料10ページの人口ピラミッドをみると19歳くらいで転出し、戻ってきていない状況がみてとれる。そこから親になる年代が少なくなり、子どもが少なくなっていくという流れになってしまっている。

委員 2000年に入る少し前までは、社会動態の減と自然動態の増が均衡していた。その均衡が崩れて、要するに子どもの数が減り、社会動態はあまり変わらないが、自然動態で亡くなる人の数が増えてきたので、急激に減り始めた。

委員 転出した子ども達に戻って来ないという話をよく耳にする。理由を聞くと働く場がないとのことである。北上市や奥州市に働きに行く若者が多いように思う。

事務局 働く場の数を増やす取組を進めている。社会減にいくらかでもブレーキをかけるような取組を進めていきたい。

委員 東京で働く息子に話を聞くと、一関市に働く場がないから帰らないという話をされる。私たちが働く場などの基盤づくりを進めていく必要があると感じている。

委員 起業して仕事を持ちたいという女性の相談が増えている。市の起業に関する補助金は好評であり、助成を手厚くすれば、自分で起業する人が増えて、その周りの人が一緒に働くなどの効果が生まれる。10年後20年後は、今の高校生が労働力の中心の年代になってくる。そこをいかに留めるか一番に考えなければならない。

事務局 市長も常々、若者活躍・女性活躍に視点を置き取り組んでいる。若者や女性がやりたいことができるまちづくりを進めることで、誰かが市に残り、その友人が残るなどの影響も考えられる。

(3) 企業版ふるさと納税について

資料No.3により事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 TGC Teenの反響は大きかった。若者たちが住みたい生き生きしたいまちづくりのためにこのようなイベントはまた開催されればよいと思う。

委員 運営の人から声がかかり手伝いをしたが、スケジュール的に準備期間が短く大変だった。今後は準備期間をきちんと設けていく必要がある。

委員 盛り上がりを感じた。子ども達に本物を見せるというのは情操教育の関係からも大変いいと思う。

委員 意外と家族連れが多かったように思う。出展ブースはもう少し数が多くても良かったのではないか。スペースの問題もあるかと思うが、商売の周知の良いチャンスかと思う。

委員 TGCそのものは知名度があり、SNSで拡散されたが、屋外イベントのPRは足りなかったのではないか。

委員 盛り上がっている様子は伝わっていた。大規模なイベントなので、準備に時間をかける必要がある。

委員 外のブースに従事した職員は拘束時間が長く、準備期間が長ければ、時間配分もうまくいったのではないかという意見もあった。

9 担当課 市長公室政策企画課